

## 第 69 回神奈川県高等学校美術展 総評（開催に寄せて）

第 69 回神奈川県高等学校美術展が無事に開催されました。今回は、103 校より総数 803 点の作品がここに展示することができました。コロナ禍においては、最大の作品数となりました。部活動に対する制限が少なくなり、ようやく思い通りの活動ができつつあるように実感しています。

ここに集まった作品はご覧の通り、部員たちの日頃の活動の成果をそのまま表したものであり、日々の個々の目標の達成に向けた努力と、持ち前の個性が手に取るように伝わってきます。

出品した部員の皆さんは、他校のたくさんの作品に囲まれた自分の作品を見て、改めて何を感じたでしょうか。並んだ作品の迫力や完成度、技術の高さに圧倒されて、中には自信をなくしてしまう人もいるかもしれません。でもそう感じることは、他の作品の良さを感じ取れる素晴らしい感性を持っている証拠なのです。他の人の作品の良さがわかる人は、もっともっと自分の作品も伸ばしていける素地を身につけた人です。自分の作品に達成感を感じた人もそうでない人も、この展覧会を機に、自信を持って積極的に自分の持ち味や良さに目を向けていってほしいと思います。

個人的には、高校生の作品展なのだからもっと荒削りであっていいし、むしろもっと勢いや思いだけが先走ったような作品に出会いたい思うところもあります。作品展なのだから、作品を見る人の目は考える必要があると思いますが、先生や保護者に褒められる作品を作ることが目標になってしまっては面白くありません。

大切なのは「自分は何をやりたいか」です。自分が感じたこと、感動したこと、今すぐ作品作りしたい！その創作に対する衝動をずっと大切に持ち続けてほしいと思います。そこから生まれた作品は、説明なんかしなくても、自ずと見る人に訴えかけるものがあるはずです。技術の切磋琢磨は後からいくらでもできるものです。その土台となる「自分がやりたいこと」を問い詰めることこそ、高校生の今の時期は大切にしてほしいと思います。

最後になりましたが、第 8 波のコロナウイルス感染拡大が懸念される中で、無事に展覧会が開催できたのは、会場を提供していただいた県民ホールギャラリーを始め、日頃指導に当たられた先生方や保護者の方々のご理解ご協力無くしてはあり得ません。心より感謝申し上げます。

審査員長 山本 文彦